



TOKYO MARATHON 2014

松村粘って8位

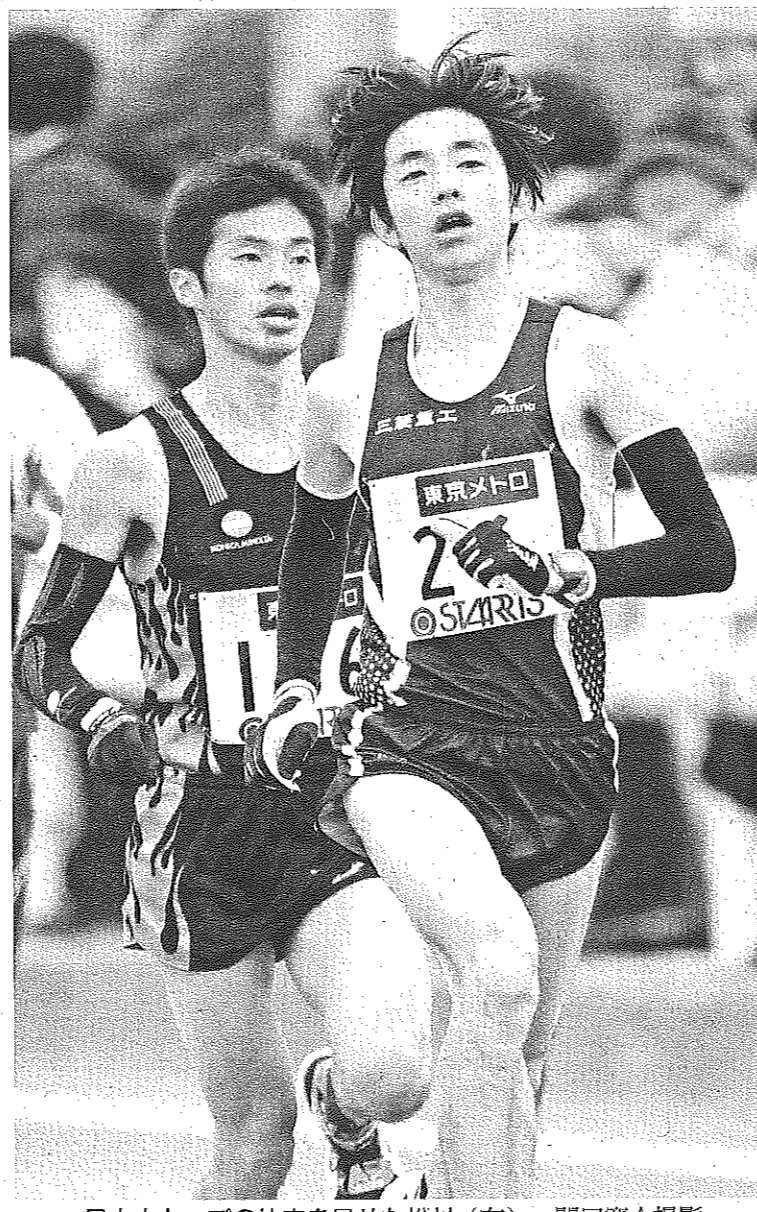
日本勢最高 自己新も世界を痛感

海外の強豪がレースを引っ張る中、マラソン3回目の松村はオーパーペースを恐れず、先頭集団にいった。「後ろへ引いてしまおう、2時間10分11分になる」。その積極性が、自己ベストを2分3秒も縮める好記録につながった。

29日付近でさすがに疲労を感じ、先頭集団に引き離された。だが、自分の走りを見失わない。ここまよいけば(2時間8分台の)

陸上・東京マラソン2014(23日・東京都庁・東京ビッグサイト)――男子は、今秋のアジア大会(韓国・仁川)の日本代表選考会を兼ねて行われ、松村康平(三菱重工長崎)が2時間8分9秒で日本勢最高の8位に入った。ディクソン・チュンバ(ケニア)が大会記録を1分8秒縮める2時間5分42秒で優勝。藤原新(ミキハウス)は76位だった。女子は、ティルファイ・ツェガエ(エチオピア)が大会記録を3分5秒縮める2時間22分23秒で制し、伊藤舞(大塚製薬)が日本勢最高の7位だった。(スタート時曇り、気温4度、湿度38%)

△本文記事1面▽



日本人トップの快走を見せた松村(右)―関口寛人撮影

陸上・東京マラソン2014(23日・東京都庁・東京ビッグサイト)――男子は、今秋のアジア大会(韓国・仁川)の日本代表選考会を兼ねて行われ、松村康平(三菱重工長崎)が2時間8分9秒で日本勢最高の8位に入った。ディクソン・チュンバ(ケニア)が大会記録を1分8秒縮める2時間5分42秒で優勝。藤原新(ミキハウス)は76位だった。女子は、ティルファイ・ツェガエ(エチオピア)が大会記録を3分5秒縮める2時間22分23秒で制し、伊藤舞(大塚製薬)が日本勢最高の7位だった。(スタート時曇り、気温4度、湿度38%)

△本文記事1面▽

◆男子レース経過◆
29日過ぎで松村、小林らが先頭集団から脱落。ペースメーカーの離れた30分過ぎ、チュンバらアフリカ勢のペースが上がり、日本勢で唯一先頭集団で走っていた黒崎拓克(コニカミノルタ)も遅れた。37分付近でチュンバとトラが抜けだし、スタートをかけたチュンバが一騎打ちを制した。松村は終盤に盛り返し、8位に入った。

◇東京マラソン成績

順位	名前	国籍	時間	分	秒
①	チュンバ	ケニア	2:05:42	◎	
②	トワ	エチオピア	2:05:57	◎	
③	キソ	ケニア	2:06:30	◎	
④	シロ	エチオピア	2:06:58	◎	
⑤	カサ	ケニア	2:07:05	◎	
⑥	アサ	ケニア	2:07:37	◎	
⑦	チム	エチオピア	2:07:40	◎	
⑧	松村	日本	2:08:09		
⑨	小村	日本	2:08:51		
⑩	ルイ	ケニア	2:09:04		
【女子】					
①	ツェガエ	エチオピア	2:22:23	◎	
②	エバ	エチオピア	2:22:30	◎	
③	カバ	ケニア	2:24:16	◎	
④	ロキ	ケニア	2:24:35	◎	
⑤	マヨ	ケニア	2:26:03	◎	
⑥	ワシ	ケニア	2:28:18	◎	
⑦	伊藤	日本	2:28:36		
⑧	新宅	日本	2:31:15		
⑨	上谷	日本	2:31:34		
⑩	吉富	日本	2:32:38		

(◎は大正)

女子トップ 伊藤7位



女子で日本人トップの7位でゴールする伊藤

伊藤舞(自己ベスト)の更新が目標で、自信はあったのに達成できなかった原因をしっかりと確認したい。

ツェガエ(35分前)が非常に速いペースとなったが、「勝つ」という気持ちで、集中して走った。

主催 東京マラソン財団
共催 日本陸上競技連盟、東京都、読売新聞社、日本テレビ放送網ほか
後援 文部科学省、国土交通省、観光庁、報知新聞社ほか
特別協賛 東京メトロ

犬山ハーフマラソン 男子駒大・其田制す
女子は右田

第36回読売犬山ハーフマラソン(読売新聞社など主催)が23日、愛知県犬山市の日本陸連公認コースで開

国内大会初 5分台に2人

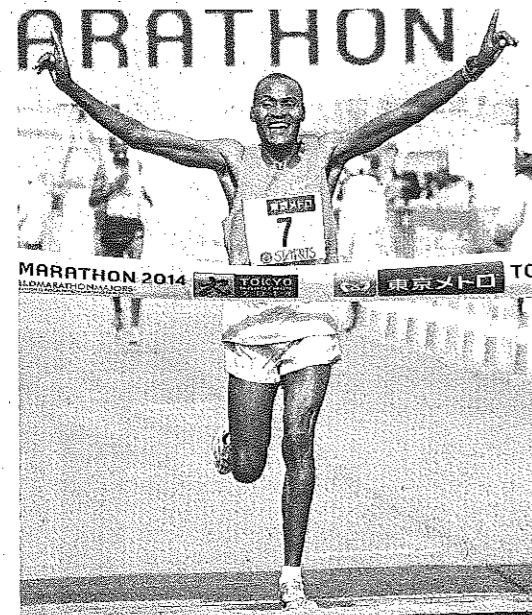
これまで、国内の大会で2時間5分台をマークしたのは、2009年福岡国際ツェガエ・ケベテ(エチオピア、2時間5分18秒)だけだった。今回の東京では優勝のチュンバ、2位のタデ・トラ(エチオピア)の2人が2時間5分台で走った。

2人の一騎打ちとなった35分からの5分は、14分21秒の驚異的なペース。世界の大都市マラソンで構成される「ワールド・マラソン・メジャーズ」に加わった2年目。日本陸連の尾崎専務理事は「国内において、世界を体感できるレースになった」と総括した。

高速レースは、日本勢にも好影響を与えた。松村のほか、一般参加の小林光二(SUBARU)も2時間8分台をマーク。11、13位に入った黒崎、酒井将規(九電

◆チュンバとツェガエに100万、23日行われた東京マラソン男子優勝のチュンバ(ケニア)と女子優勝のツェガエ(エチオピア)には、それぞれ優勝賞金800万円と大会記録ボーナス300万円の計1100万円が贈られる。

男子で優勝したチュンバ―中村光一撮影



男子で優勝したチュンバ―中村光一撮影

チュンバ一騎打ち制す

石川末広(ホンダ)は2時間9分台だった。国内外の選手にとって、東京マラソンの価値が高まっていることを示した。(北台圭)

奈良が決勝進出

テニスリオオープン

【リオデジャネイロ】畔川吉永(テニス)のリオオープン(テニス)は、リオデジャネイロで行われ、女子シングルス準決勝は第5シードで世界ランキング62位の奈良くるみ(大産大)が160位のナスターシャ・ブルネット(イタリヤ)に6-1、3-6、6-2で勝利し、決勝進出を決めた。23日の決勝では第1シードで同35位のクララ・ザコパロバ(チェコ)に挑む。奈良は勝てばツアー初優勝。

◆エルスらが4強入り 男子ゴルフの世界選手権シリーズ、アクセンチュア世界マッチプレー選手権は22日、米アリゾナ州メソナのリック・カールトンGCでアマチュア(男子)の決勝が行われ、エリス(南アフリカ)がジョー・ダン・スピース(米)を破って4強

男子73級秋本V

柔道のグランプリ・デュッセルドルフ大会は22日、ドイツのデュッセルドルフで行われ、男子73級級で秋本啓之(了徳寺学園)が優勝した。女子では、63級級の

清水2年ぶり優勝

国体スキー複合 第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会は23日、山形市の蔵王ジャンプ台などで行われ、複合の成年男子Aは清水亜久里(新潟・専大)が2年ぶりの優勝を果たした。成年男子Bは久保貴寛(山形県体協)が優勝し、2位は2010年パ

松村8位 日本勢最高

陸上 東京マラソン 23日

東京都庁から東京ビッグサイトまでのコースであり、今秋のアジア大会(韓国・仁川)日本代表選考会を兼ねた男子は、松村康平(三菱重工長崎)が自己最高の2時間8分9秒で日本選手最高の8位に入った。日本勢2番手は9位の小林光二(SUBARU)。

日本勢は13位の石川末広(ホンダ)までの計5人がサブテン(2時間10分切り)を達成した。ディクソン・チュンバ(ケニア)が大会記録を1分8秒縮める2時間5分42秒で初優勝した。初マラソンの宮脇千博(トヨタ自動車)は15位だった。女子は2011年世界選

男子(タイムは時間分秒、※は大会新)

①ディクソン・チュンバ	ケニア	※2.05.42
②タデセ・トラ	エチオピア	2.05.57
③サミー・ネトワラ	ケニア	2.06.30
④マイケル・キピエゴ	ケニア	2.06.58
⑤ピーター・ソメ	ケニア	2.07.05
⑥ジョフリー・キブサング	ケニア	2.07.37
⑦デレサ・チムサ	エチオピア	2.07.40
⑧松村康平	三菱重工長崎	2.08.09
⑨小林光二(SUBARU)	2.08.51	⑩アベル・キルイ(ケニア) 2.09.04
⑪黒崎拓克(コニカミノルタ)	2.09.07	⑫酒井将規(九電工) 2.09.10
⑬石川末広(ホンダ)	2.09.29	⑭サイラス・ジュイ(日立物流) 2.09.35
⑮宮脇千博(トヨタ自動車)	2.11.50	⑯アラブ・プーラムダン(モロッコ) 2.12.09
⑰高田千春(JR東日本)	2.12.09	⑱浦井圭介(ヤクルト) 2.12.12
⑳佐藤舞(上武大)	2.12.15	㉑池田泰仁(NTT西日本) 2.13.49

女子(タイムは時間分秒、※は大会新)

①ティルフィ・ツェガエ	エチオピア	※2.22.23
②ベルハネ・ディババ	エチオピア	2.22.30
③ルーシー・カブー	ケニア	2.24.16
④キャロライン・ロティチ	ケニア	2.24.35
⑤ジャネット・ロノ	ケニア	2.26.03
⑥アルピナ・マヨロワ	ロシア	2.28.18
⑦伊藤舞	大塚製菓	2.28.36
⑧新宅里香	しまむら	2.31.15

車いすの部=1位記録

▷男子 山本浩之(福岡)	1.30.43
▷女子 土田和歌子(サノフィ)	1.48.08

日本5選手 「サブテン」

○日本の長距離界で中堅クラスの選手が5人も2時間10分を切った。序盤の10分までが下りで、楽に速いリズムに乗れるコースの特性もあり、15分まで各5分14分台だった先頭集団の流れに無理なく加わることができた。さほどスピードがなくてもスタミナをつければ8分台、9分台で走れることを証明したレースともいえる。日本陸連の宗盛・男子中長距離マラソン部への階段は上れない。(酒瀬川亮介)

2時間8分9秒

新星が名乗り

36歳過ぎ、松村は日本勢トップに立った。気づくと2012年ロンドン五輪銀メダルのキルイ(ケニア)も抜いていた。「一度も振り返らなかつたから、順位もよく分かっていなかった」。先頭集団から遅れた29歳手前から、ゴールまで抜いたのは5人。「2時間8分台を狙う」。レース前々日の記者会見で宣言した目標だけを見据えて走りきった。そう言わずにいらなかった。これまでマラソン完走2回で、最高は

ハイライト

2時間10分12秒。会見に呼ばれたのは、招待選手の相次ぐ欠場による代役という自覚があった。「見劣りするの分かってはいる。でも実際には(ロンドン五輪代表の藤原新の)前にいるようにしたい」。社会人5年目で目立った実績はなかった。山梨学院大時代に箱根駅伝を走ったものの、今回欠場した佐藤悠基(日清食品グループ)や、市民ランナーの川内優輝(埼玉県庁)ら同年代の選手の陰に隠れてきた。ただ、自信はあった。昨年11月から40歳走を8本、しっかりと走れた。指導する黒木純監督から「途中で時計をみて速すぎる」とびびるなよ」と言われるほど、仕上がっていた。レース後、松村は「五輪や世界選手権で戦えるようになりたい」と明言し、黒木監督は目を細めた。「思い切りのなさが弱点だった。今日は自分から攻めて日本人トップを取りに行った。それは成長かな」(増田創至)



8位でゴールする松村康平=内田光撮影



チュンバV 大会新

30歳から始まったケニアとエチオピア勢の優勝争いは、35歳で仕掛けたチュンバが粘るトラを40歳過ぎで振り切った。35歳も「速過ぎる」と感じなかったと涼しい顔。今までマラソンで2勝しているが、メジャー大会は初制覇だ。コースレコード更新のボーナスは300万円。優勝賞金とあわせて1100万円を獲得した。「練習とビジネスを始めるのに使いたい」と顔をほころばせた。

女子も大会新 ツェガエ制す

エチオピア勢同士の優勝争いとなった女子は、29歳のツェガエが終盤のデッドヒートを制した。「35歳からが勝負どころだった」。40歳までは2位のディババと同タイムだったがスパーク力の違いで勝負を決めた。大会記録を3分以上縮める快走に「いいレースだった」。



7位でゴールする伊藤舞

伊藤7位 笑顔なし
女子で日本選手トップの7位となった伊藤は笑顔はなかった。「自己ベストを更新できる準備ができたと思っていたので悔しい」。この1年はスピードを磨いてきたが、中間点を過ぎてから足が動かなくなり、自己記録に3分10秒も届かなかった。2011年世界選手権代表の29歳。「故障も体調不良もなく練習できていたのに」と肩を落としていた。

■マラソン自己最高の現役上位5傑

1	2時間7分48秒	藤原新(ミキハウス)
2	2時間8分0秒	前田和浩(九電工)
3	2時間8分9秒	松村康平(三菱重工長崎)
4	2時間8分12秒	藤原正和(ホンダ)
5	2時間8分14秒	川内優輝(埼玉県庁)

2時間30分58秒で男子76位だったロンドン五輪代表の藤原新(ミキハウス)「20歳過ぎに足がガクガクになった。とにかく攻めるだけ攻めた」

▼第36回読売大山ハーフマラソン(23日、愛知・名証大山総合運動場発着) 11位記録 △男子 其田健也(駒大) 1時間3分44秒 △女子 右田愛(ワコール) 1時間14分5秒